



アートのような暖炉の周囲に
さまざまな個性が集う

リビングに君臨するのはシャルル・ザナが手がけた暖炉。木のチェアはピエール・ジャンヌレが50年代に発表した「シーザー」。大理石のテーブルには2〜3世紀の作品と思しき頭部像と、エンツォ・マリの二つの花瓶が飾られている。木製のテーブルはエットレ・ソットサスの作品。

TIMELESS COLLECTION

時を超えたフォルムが響き合う ファッションデザイナーの“飾り棚”

ファッションデザイナーのジュリー・ドウ・リブランが住まうパリの家。倉庫を改装した広いアパートマンには、異なる時代の造形、質感が交差する、彼女の美意識に彩られた鮮やかなステージが設けられていた。

Photos NICOLAS MATHEUS Original Text LAURENCE DOUGIER
Text RITSUKO ABE





**明るい日差しが降り注ぐ
ヴィンテージ感あふれるダイニング**

大きな木製テーブルは19世紀につくられたもの。チェアはジャン・ブルーヴェの「スタンダード」を合わせた。キッチンとラッカー仕上げの収納はシャルル・ザナのデザイン。ワークトップと壁には大理石を採用した。ランプはマイケル・アナスタシアデスの「グラン・フィナーレ」。

“時代やスタイルを超えた、主張のある家づくりを選んだのです”

ファッションデザイナーとして自らのブランドを主宰するジュリー・ドウ・リブラン。彼女が家族と暮らす家はリュクサンブール公園とモンパルナスタワーの間、パリ7区の静かな住宅地にある。都心にいながらにして田舎の家のように豊かな庭からリブランは現れた。

**歴史ある建築の中で
普遍的な美しさを求めて**

ソニアリキエルでアーティスティックディレクターを務めていた彼女は、独立と合わせて新居を探し始めたという。ここは以前出版社の倉庫として使われており、敷地内には著名な造園家が設計した二つの中庭が設けられている。

「立地や面積はとも魅力的でしたが、すぐに人が住み始められるほど生易しい状態ではありませんでした。どのように改装するべきか思案していたところ、シャルルと出会ったのです」とリブラン。

インテリアデザイナーであり美術品の収集家でもあるシャルル・ザナは、「シンプルなスタイルの中にラグジュアリーを追求する彼女の姿勢、洗練への手間を惜しまない感性に共感しました」と、依頼を引き受けた当時のことを振り返る。

巨大な倉庫を洗練された住宅へとコンバージョンするのは並大抵のことではなかったが、ふたりは楽しみながら計画を進めることに。天井や床を削がし、書庫として使われていた複数の小部屋の壁を取り払う作業

からプロジェクトはスタートした。その過程でオーナー一家は全てを一新するのではなく、レンガづくりの荒れた壁やリベットがむき出しになった鉄骨の梁など、建物が持つ歴史を物語る荒々しい質感は残すことを選んだ。

「その時代への愛情と共に古いディテールを残すことは、歴史のある建物を手に入れた者の特権でもあります。私たちが目指したのは一般的にいうところの、調和が取れた居心地の良い空間ではありませんでした。時代やスタイルを超えて主張する空間を備えた、少し個性的な家づくりなのです」

3階建てのこの家の最大の特徴は、リビングにしつらえた大きな暖炉や吹き抜けのらせん階段といった、建築的な意匠が随所で楽しめる点にある。その空間的なステージの周囲に、リブランたちは以前より集めていたヴィンテージの家具や美術品をコーディネート。壁面の飾り棚にはさまざまな国からやってきた、決して見飽きることのないオブジェがディスプレイされた。このフロアではピカソの花瓶もキリコの絵画も、ソットサスのテーブルも、全てのアイテムが居心地良さそうにひしめきあっている。

リブランとザナ、ふたりが仕掛けたコンバージョンは見事な結果をもたらした。元倉庫という古い建物の輪郭をまとう一方で、時代を超越したエレガンスに満ちた空間へと変貌を遂げたのだ。

ギャラリーのような一角へ
らせん階段がいざなう

1階のエントランスから伸びるらせん階段は、この2階の踊り場を経て3階へと続いている。音符のような曲線を描く鋼鉄製の手すりは彫刻家のオーレリアン・レイノーが手がけた。北欧テイストのアンティークチェアの脇に、ローマ時代の彫像を添えるのがリブランのスタイル。



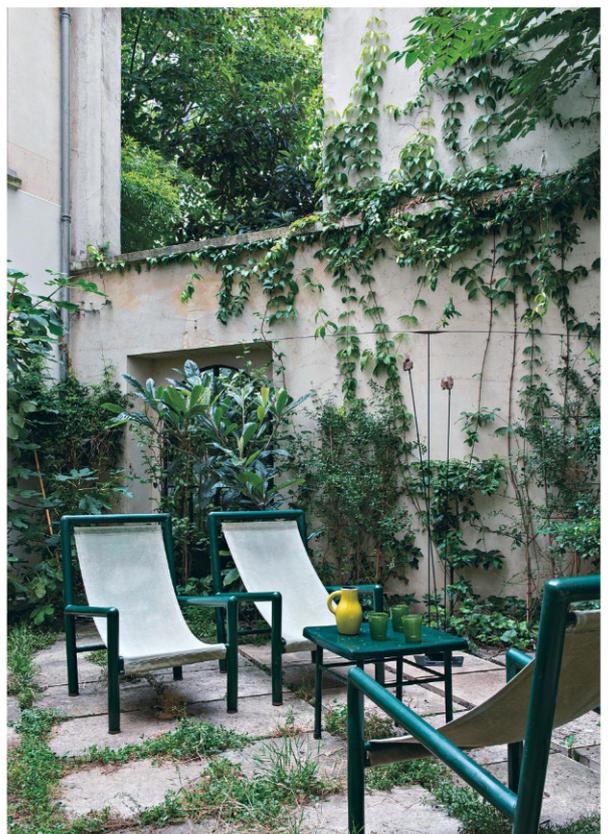


**建物を包む緑に囲まれた
秘密の中庭でくつろぐ**

右下 造園家のルイ・ベネシュが設計した中庭は家族や親しい友人とくつろぐ場として利用している。周囲の植物に溶け込むかのような深緑のアームチェア「トランザット」と中央のテーブルは、モダニズム建築で知られる建築家、ロベール・マレ＝ステヴァンスがデザインしたもの。

**緑を取り込む浴室は
大理石に彩られた小宇宙**

右上 窓から見える植物とリンクする、緑色を帯びたカラーラ産大理石を床と収納棚に採用。ダブルシンクの鏡はシャルル・ザナ、照明はジオ・ボンティのデザイン。大理石と対照的な鉄製のバスタブはドラモンズバスルームの「ザ・テイマー」。窓の横の鏡は受け継がれてきた逸品。





現代アートが刺激を添える 質感豊かなベッドルーム

天井の一部に梁を残す主寝室はグリーンとローズの優しい色調で調えた。ヘッドボード上に並んでいるのはイギリス人アーティスト、ケイト・マグワイアの作品。右の立体アートは音響スタジオの吸音パネルをモチーフにしたローラン・グラッソの作品『アネコイック・ウォール』。